# 2026 年度前期
# 「授業改善のための学生アンケート」結果報告書

白百合女子大学 FD･SD 推進委員会

# はじめに

FD・SD 推進委員長
トミヤマ　ユキコ

「授業改善のための学生アンケート」へご協力くださいました学生・教職員のみなさま、いつもご協力ありがとうございます。

FD・SD 推進委員会では、アンケート項目の見直しを図るなど、より多くの学生からさまざまな声を届けてもらえるよう、工夫を重ねております。

しかし、アンケートの回収率、自由記述の回答率ともに、低迷が続いているというのが正直なところです。

もしかすると「自分ひとりが回答しようとしまいと、何も変わらないのではないか」という思いが学生たちにあるのかもしれません。しかし、ひとりにはひとり分の力がちゃんとあり、その力によって学修環境を改善する可能性がある。

今回の結果を受けて、そのことを知ってもらう必要があると強く感じています。

新学部・新学科立ち上げを間近に控えた本学では、学修環境のアップデートが以前にも増して大事になってきています。

本委員会でも、新しい動きに対応するべく、みなさまのお力を借りながら、努力と工夫を重ねていく所存です。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

# 目　　次


1. 2026 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的 ……1
② 実施概要 ……1
③ 実施方法 ……1
④ 実施科目数 ……1
⑤ アンケート内容 ……2

2. 2026 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果

① 学部 ……3
② 大学院 ……5

3. 2026 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ ……7
② 教務課からのメッセージ ……12

4. 2026 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業

① 顕彰授業 ……13
② 顕彰授業における工夫 ……14

# 1. 2026 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

## ① 目的

1）さまざまな角度から学生の反応・実態を知ることで、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。

2）設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。

3）学生が学びたい内容を適切なレヴェルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。

4）科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。

5）学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

## ② 実施概要

実 施 期 間：2026 年 7 月 8 日（水）～7 月 28 日（火）

実 施 対 象：原則としてすべての前期科目

※ただし、卒業論文等の論文指導科目および履修人数が少数等の理由により担当教員より申し出のあった科目は除く

調 査 方 式：CAMPUS SQUARE（Web） 自由記述欄あり（p.2 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約 10 分

## ③ 実施方法

授業担当教員は、授業時間内に 10 分程度のアンケート回答時間を設け、実施目的を十分に理解したうえで回答するよう学生に周知する。回答が完了しなかった学生には、実施期間中の任意の時間に回答するよう指示する。

## ④ 実施科目数

511 科目（学部：485、大学院：26）

## ⑤ アンケート内容

**2026年度前期「授業改善のための学生アンケート」**

**Q1:（大学院科目対象外）授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間がかかりましたか。【五肢択一】**

I. ◯ 週2時間以上
II. ◯ 週1～2時間
III. ◯ 週30分～1時間
IV. ◯ 週0分～30分
V. ◯ 全くしていない

**Q2:授業の進度や難易度は適切だった。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**Q3:教材や配布資料の内容や分量は適切だった。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**Q4:この授業は、シラバスに沿ったわかりやすいものだった。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**Q5:教員の説明はわかりやすかった。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**Q6:教員は学生からの質問、相談、提出物に対して適切に対応していた。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**Q7:この授業の内容に興味を持つことができた。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**Q8:この授業を履修したことに満足している。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**Q9:この授業を他の人に勧めたい。【五肢択一】**

I. ◯ あてはまる
II. ◯ どちらかと言えばあてはまる
III. ◯ どちらとも言えない
IV. ◯ どちらかと言えばあてはまらない
V. ◯ あてはまらない

**自由記述欄へは、誹謗中傷・差別的表現の書き込みや無関係・無責任な記述を慎み、建設的なコメントをお願いします。**

**Q10:学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）について改善してほしいところがあれば具体的に記述してください。【記述式 1000文字以内】**

**Q11:この授業について、良かった点を、自由に記述してください。【記述式 1000文字以内】**

**Q12:この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。【記述式 1000文字以内】**

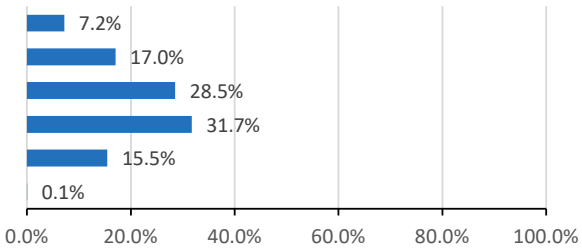
**Q13:この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、次に活かしたいことなどを、自由に記述してください。【記述式 1000文字以内】**

# 2. 2026年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

## ① 学部

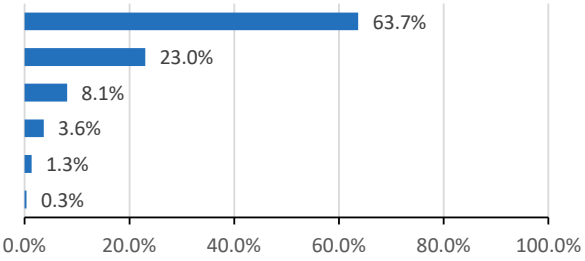
### Q１　（大学院科目対象外）授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間がかかりましたか。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 週２時間以上 | 351 | 7. 2% |
| 2 | 週１～２時間 | 836 | 17. 0% |
| 3 | 週３０分～１時間 | 1, 400 | 28. 5% |
| 4 | 週０分～３０分 | 1, 557 | 31. 7% |
| 5 | 全くしていない | 758 | 15. 5% |
| 6 | 非該当 | 3 | 0. 1% |
| | 合計 | 4, 905 | |



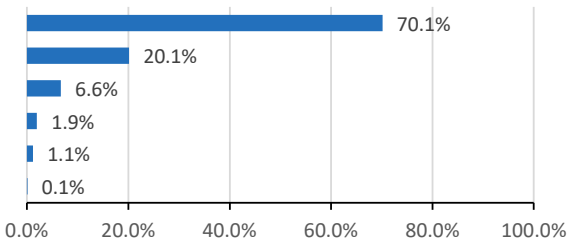

### Q２　授業の進度や難易度は適切だった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 3, 124 | 63. 7% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 1, 128 | 23. 0% |
| 3 | どちらとも言えない | 396 | 8. 1% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 177 | 3. 6% |
| 5 | あてはまらない | 63 | 1. 3% |
| 6 | 非該当 | 17 | 0. 3% |
| | 合計 | 4, 905 | |



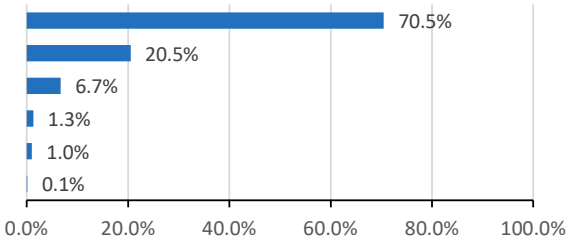

### Q３　教材や配布資料の内容や分量は適切だった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 3, 440 | 70. 1% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 985 | 20. 1% |
| 3 | どちらとも言えない | 325 | 6. 6% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 95 | 1. 9% |
| 5 | あてはまらない | 56 | 1. 1% |
| 6 | 非該当 | 4 | 0. 1% |
| | 合計 | 4, 905 | |



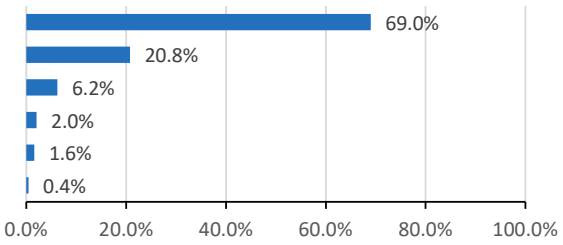

### Q４　この授業は、シラバスに沿ったわかりやすいものだった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 3, 457 | 70. 5% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 1, 005 | 20. 5% |
| 3 | どちらとも言えない | 327 | 6. 7% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 63 | 1. 3% |
| 5 | あてはまらない | 48 | 1. 0% |
| 6 | 非該当 | 5 | 0. 1% |
| | 合計 | 4, 905 | |



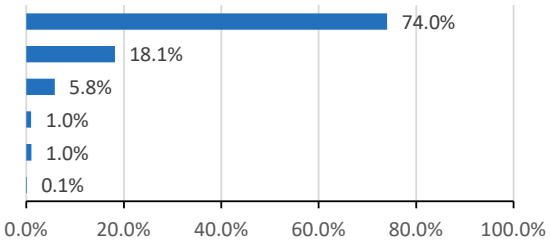
## Q５　教員の説明はわかりやすかった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 3, 384 | 69. 0% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 1, 019 | 20. 8% |
| 3 | どちらとも言えない | 304 | 6. 2% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 99 | 2. 0% |
| 5 | あてはまらない | 78 | 1. 6% |
| 6 | 非該当 | 21 | 0. 4% |
| | 合計 | 4, 905 | |



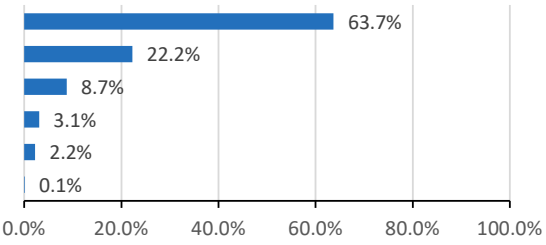

## Q６　教員は学生からの質問、相談、提出物に対して適切に対応していた。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 3, 632 | 74. 0% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 890 | 18. 1% |
| 3 | どちらとも言えない | 284 | 5. 8% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 47 | 1. 0% |
| 5 | あてはまらない | 48 | 1. 0% |
| 6 | 非該当 | 4 | 0. 1% |
| | 合計 | 4, 905 | |



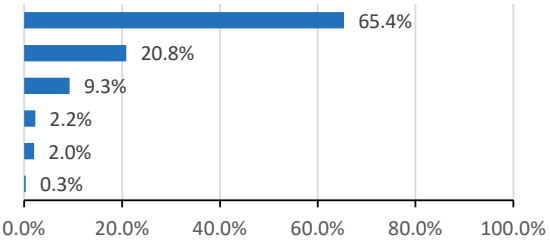

## Q７　この授業の内容に興味を持つことができた。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 3, 124 | 63. 7% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 1, 090 | 22. 2% |
| 3 | どちらとも言えない | 427 | 8. 7% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 151 | 3. 1% |
| 5 | あてはまらない | 108 | 2. 2% |
| 6 | 非該当 | 5 | 0. 1% |
| | 合計 | 4, 905 | |



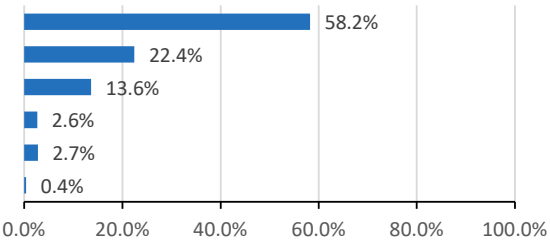

## Q８　この授業を履修したことに満足している。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 3, 207 | 65. 4% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 1, 021 | 20. 8% |
| 3 | どちらとも言えない | 455 | 9. 3% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 109 | 2. 2% |
| 5 | あてはまらない | 98 | 2. 0% |
| 6 | 非該当 | 15 | 0. 3% |
| | 合計 | 4, 905 | |




## Q９　この授業を他の人に勧めたい。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 2, 857 | 58. 2% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 1, 100 | 22. 4% |
| 3 | どちらとも言えない | 668 | 13. 6% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 128 | 2. 6% |
| 5 | あてはまらない | 134 | 2. 7% |
| 6 | 非該当 | 18 | 0. 4% |
| | 合計 | 4, 905 | |



# 2. 2026年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

## ②大学院

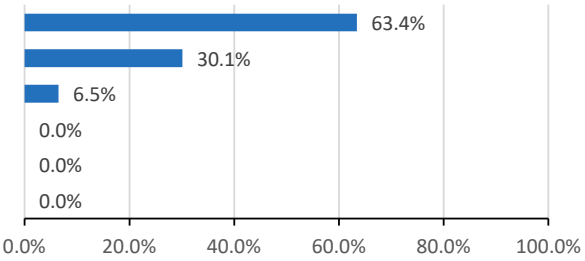
### Ｑ１　（大学院科目対象外）授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間がかかりましたか。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | 週２時間以上 | 0 | |
| 2 | 週１～２時間 | 0 | |
| 3 | 週３０分～１時間 | 0 | |
| 4 | 週０分～３０分 | 0 | |
| 5 | 全くしていない | 0 | |
| 6 | 非該当 | 0 | |
| | 合計 | 0 | |



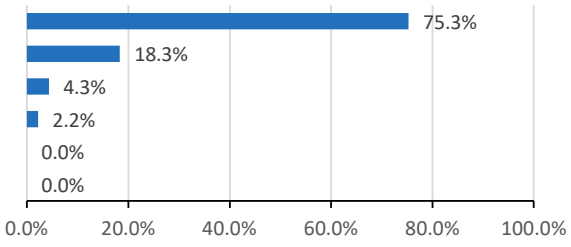

### Ｑ２　授業の進度や難易度は適切だった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 59 | 63.4% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 28 | 30.1% |
| 3 | どちらとも言えない | 6 | 6.5% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 0 | 0.0% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0.0% |
| 6 | 非該当 | 0 | 0.0% |
| | 合計 | 93 | |



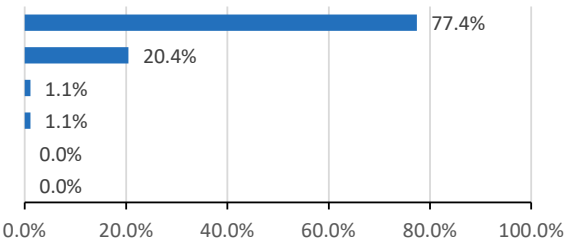

### Ｑ３　教材や配布資料の内容や分量は適切だった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 70 | 75.3% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 17 | 18.3% |
| 3 | どちらとも言えない | 4 | 4.3% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 2 | 2.2% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0.0% |
| 6 | 非該当 | 0 | 0.0% |
| | 合計 | 93 | |



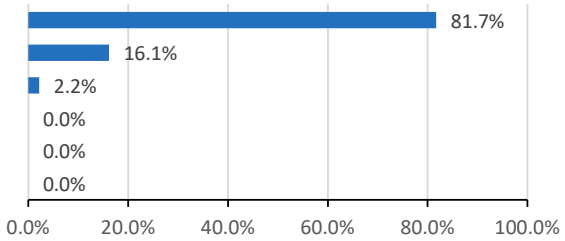

### Ｑ４　この授業は、シラバスに沿ったわかりやすいものだった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 72 | 77.4% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 19 | 20.4% |
| 3 | どちらとも言えない | 1 | 1.1% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 1 | 1.1% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0.0% |
| 6 | 非該当 | 0 | 0.0% |
| | 合計 | 93 | |



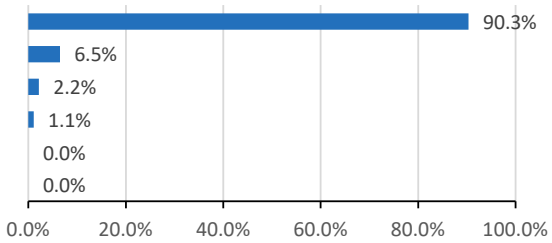
## Q５　教員の説明はわかりやすかった。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 76 | 81. 7% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 15 | 16. 1% |
| 3 | どちらとも言えない | 2 | 2. 2% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 6 | 非該当 | 0 | 0. 0% |
| | 合計 | 93 | |



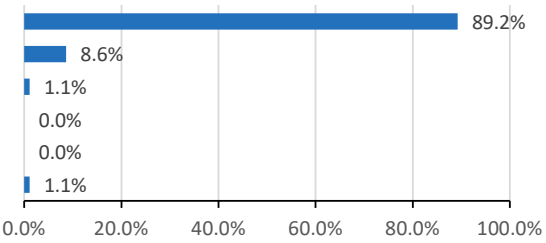

## Q６　教員は学生からの質問、相談、提出物に対して適切に対応していた。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 84 | 90. 3% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 6 | 6. 5% |
| 3 | どちらとも言えない | 2 | 2. 2% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 1 | 1. 1% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 6 | 非該当 | 0 | 0. 0% |
| | 合計 | 93 | |



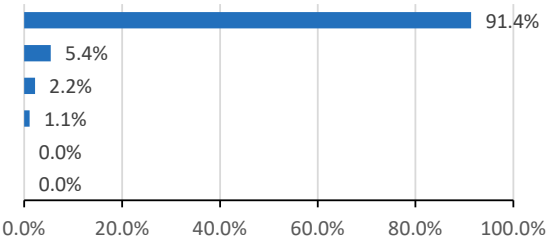

## Q７　この授業の内容に興味を持つことができた。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 83 | 89. 2% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 8 | 8. 6% |
| 3 | どちらとも言えない | 1 | 1. 1% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 6 | 非該当 | 1 | 1. 1% |
| | 合計 | 93 | |



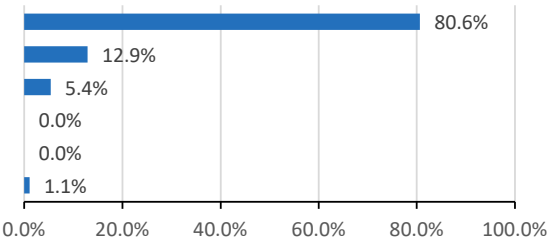

## Q８　この授業を履修したことに満足している。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 85 | 91. 4% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 5 | 5. 4% |
| 3 | どちらとも言えない | 2 | 2. 2% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 1 | 1. 1% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 6 | 非該当 | 0 | 0. 0% |
| | 合計 | 93 | |




## Q９　この授業を他の人に勧めたい。

| No. | Category | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 1 | あてはまる | 75 | 80. 6% |
| 2 | どちらかと言えばあてはまる | 12 | 12. 9% |
| 3 | どちらとも言えない | 5 | 5. 4% |
| 4 | どちらかと言えばあてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 5 | あてはまらない | 0 | 0. 0% |
| 6 | 非該当 | 1 | 1. 1% |
| | 合計 | 93 | |



## 3. 2026 年度前期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応えて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。また、教室や設備に関する意見は学内の関係部署に共有しています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応えて、授業担当教員と教務課からのメッセージをお届けいたします。

### ①〔学部科目〕授業担当教員からのメッセージ

| 信頼づくりの作法 | 関口　喜美子 | 2026／火 3／前期 |
|---|---|---|

【Q10 学びの環境について】
●プロジェクターの映りをよくしてほしい。
⇒管財課とも相談し、投影の向上を相談します。また背景の色を付けずにシンプルな PPT にします。
【Q12 自由記載について】
●スライドの資料共有無し、実際に来て受けることが大切と仰っていたが、やはりマナバによるスライド共有は欲しいと感じた。簡易まとめ資料とマナバによるスライド共有どちらも併せて復習したい。また、座席に関して私の番号が前の列なことが多すぎるように感じたため、もう少し座席シャッフルは念入りに行ってほしいと思った。
⇒スライドの manaba 掲出をしないことには、目的があります。①参加型授業なので、資料だけで理解しないで欲しい点。そのうえで、知識を理解する上では必要な情報を manaba に揚げております。②資料を見ることで、集中力が欠けます。5 感で授業を体験し、不明な点は質問して欲しいと考えております。次回の授業では学生さん方の意見を聞き、PPT を見る必要性を感じたら manaba 掲出も検討します。
⇒座席に関しては、均等になるように工夫いたします。授業でもお伝えしておりますが、退出の必要がある方、何かしらの理由がある方で後方座席希望の方は申し出ることでご希望通りにしております。なお、授業の特性から前方・後方での優位劣位の発生はないと認識しておりますが、次回は学生さん方の意見も聞いて善処いたします。
●喋らない上級生などがたまにいるため学年ごとに固めてほしい。
⇒学年ごとに分けないことが、様々なタイプの人と話す機会を得る上で重要だと考えます。話さない人も何らかの葛藤があり話せない、そのことに触れることも必要と考えるため、属性でのグループ分けは避けていることをご理解いただきたいと思います。
●少人数制の方が一人一人の言葉遣いなどを見れると思った。
⇒人数制限のない授業なので、少人数制が取れない状況です。信頼づくりの作法では、観察力・洞察力のお話もしました。条件のある環境でも一人ひとりを注意深く観察できる能力を磨いていただきたいと思います。

| 子どもの権利と国際社会 | 松本　方哉 | 2026／水 3／前期 |
|---|---|---|
| 大変な数のご支持、温かい言葉をありがとうございます。私は皆さん一人ひとりと誠実に学問を極めているつもりで、教室のほとんどの方とその思いが共有されたのが最も嬉しい点です。学生の仕事は学ぶことです。この仕事が１００％うまくいくように、私としては、より謙虚に、またユーモアやエスプリを忘れずに少しでもおもしろく、かつ、ためになる講義を展開したいと思っていますので、よろしくお願い致します。 | | |

| 韓国語ＡⅠ／韓国語ＢⅠ | 丹羽　裕美 | 2026／月・木 4／前期 |
|---|---|---|
| ハングル文字から覚え始め、数か月の間に少しずつ単語や文章を身につけていくことは、大変なことだったと思います。それでも、皆さんが熱心に取り組んでくださったおかげで、今では会話や聞き取りにもチャレンジできる力がついてきました。学期末には、韓国の映画を見ながら、聞き取れた単語を書き出してもらいましたね。そのとき、皆さんが本当にたくさんの単語を書き出せるようになっていたことに、とても感動しました！<br>一人ひとりの努力が、しっかりと力になっていることを感じています。<br>後期も、韓国語を楽しみながら、少しずつできることを増やしていきましょうね。<br>これからも一緒に楽しく学んでいきましょう！ | | |

| 韓国語ＡⅢ／韓国語ＢⅢ | 丹羽　裕美 | 2026／月・木 3／前期 |
|---|---|---|
| これまで学んできた文法や単語を一つひとつ積み重ね、韓国語で表現できることが増えてきましたね。中級になると、覚える単語や表現も増え、文章もだんだん複雑になってきます。大変だと感じることもあったと思いますが、皆さんが熱心に取り組んでくださったことで、会話や聞き取りにも積極的にチャレンジできる力がついてきています。<br>学期末には、韓国の社会や歴史にも関心を持っていただくきっかけになればと思い、韓国で大きな意味を持つ歴史的事件の一つである光州事件を題材にした映画を見ました。<br>韓国語を学ぶことは、言葉だけでなく、その言葉が使われている社会や文化、歴史を知ることにもつながります。映画を通して韓国の歴史や社会について考え、お互いの背景を理解することが、日韓の相互理解にもつながっていけばと思っています。<br>これまで身につけてきた力を自信にして、後期も韓国語を楽しみながら、さらにステップアップしていきましょう。 | | |

| 選択韓国語Ⅰ | 丹羽　裕美 | 2026／月・木 5／前期 |
|---|---|---|
| ハングル文字から覚え始め、数か月の間に少しずつ単語や文章を身につけていくことは、大変なことだったと思います。それでも、皆さんが熱心に取り組んでくださったおかげで、今では会話や聞き取りにもチャレンジできる力がついてきました。学期末には、韓国の映画を見ながら、聞き取れた単語を書き出してもらいましたね。そのとき、皆さんが本当にたくさんの単語を書き出せるようになっていたことに、とても感動しました！<br>一人ひとりの努力が、しっかりと力になっていることを感じています。後期も、韓国語を楽しみながら、少しずつできることを増やしていきましょうね。<br>これからも一緒に楽しく学んでいきましょう！ | | |

| 国語学概論Ⅰ | 阪上　健夫 | 2026／火 4／前期 |
|---|---|---|
| 【Q12 の「教室はもっと小さくても良いと思った。」という意見について】教員側としてもそのように思ったので、より適切な教室に変更できるよう問い合わせてみます。 | | |

| 国語学概論Ⅰ | 佐々木　文彦 | 2026／水 1／前期 |
|---|---|---|
| Q11. アクセント等の説明について「先生にわかりやすく説明していただいたことが印象的でした」と書いてくださった人もあれば、「アクセントの問題(解き方、法則など)について、さらに詳しく説明していただけると、より理解が深まると思います」と」書いてくださった人もあり、わかりやすく説明したつもりでも、十分には伝わっていなかったと反省しております。後期の授業では、質問しやすいように授業運営の工夫をいたします。<br>Q12. 「日本語について普段なぜだろうと思っても踏み込めないことを教えてくださり日本語の基礎力が上がったような気がするので、日常生活での日本語の活用に役立てたいです。」という回答があり、うれしく思いました。皆さんが今後、日本語について「なぜだろう」と思ったことについて調べたり考えたりする機会が増えることを願っております。 | | |

| 国語学講義Ａ Ⅰ | 佐々木　文彦 | 2026／水 2／前期 |
|---|---|---|
| Q11.の回答に「様々な単語の意味や使い方の変遷を調べたり学んだりすることで、新たな発見が得られた点がよかった。また、どのように作品や辞書から意味や用例を調べるのかについても学ぶことができた。」というものがあった。また、Q12.の回答に「国語学の研究をする際に辞書のみならず用例を確認することの大切さを学んだ。」というものがあった。<br>言葉の意味や用法は辞書にまとめられているけれども、辞書レベルの意味記述では十分に説明できないものがある。この授業をきっかけに、辞書が正解なのではなく、辞書の記述を出発点としてその語について考える態度を身につけてほしい。 | | |

| 日本語教育実習 | 武田　加奈子 | 2026／月 4／前期 |
|---|---|---|
| 【Q12 に書かれていた「スケジュールが決まるのが遅い/二転三転しすぎて決定事項がよくわからない」について】<br>スケジュール決定が遅いのは、ご自身でも「先方との調整があるとはいえ」と書いているように、日本語学校が 4 学期制のため、実習で伺いたい時期は次学期でクラス編成が変わっている可能性が高く、実習に入るクラスの様子が 7 月にならないとわからないことが大きな要因です。本学の学生が入ってもよさそうなのはどのクラスか、タイミングとして影響が少ないのは何週目かなどなど、気をつかうポイントがいくつかありますが、日本語学校の担当者も新入生の様子は来日してみないとわかりませんので、相談して決定するまで時間がかかります。また、私も実際にみなさんが模擬授業をやってみせてくれたりしないと、どのような内容ならできそうか、勉強してきたことをどこまで実習に入れこむかが判断できない部分もあるので、「日本語教育研究」の先生と相談しながら内容やスケジュールなどを決めています。<br>とはいえ、二転三転しているつもりはなく、課題も次の授業まで、というのが期間が短いとは思っていなかったので説明不足だったのだろうと反省しております。今年は（いつもにまして？）優秀な学生さんたちだったので、結構あれこれできそうだという話になり、ほかの方に | | |

| |
|---|
| 自慢できるぐらいのフルスペックでやってもらいました。そのつらかったけれど乗り越えた経験を今後に生かしていただければ嬉しいです。 |

| 図書館情報学概論 | 今井　福司 | 2026／火 4／前期 |
|---|---|---|
| 【Q10.学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）について改善してほしいところ】<br>「席が窮屈に感じた。椅子を後ろまで引いてたまに自分の机に当たってしまうことがある」については、授業教室の 2 号館地下 1 階の教室の環境によるものなので、即座の対応は難しいですが、後期以降は窮屈に感じる方が移動しやすいようにする（1 回目にそうした要望を出すことを促すなど）など、対応について配慮していきたいと思います。 | | |

| 情報サービス論 | 今井　福司 | 2026／月 3／前期 |
|---|---|---|
| 【Q10.学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）について改善してほしいところ】<br>「パソコンのお部屋なのですが、1 回だけ小さい画面が動かなくなることがあった。」について、ご指摘のように、授業の画面を共有する Skyview のアプリが止まってしまうことがございました。同時に動かしている Google Chrome の負荷が大きくなったことで停止した可能性が高いと思われます。ほかの教室またほかの大学でも同様の負荷増大が観測できましたので、後期以降は Chrome 以外のアプリでウェブページを提示するように対応を変えていきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。<br>【Q11.この授業について、良かった点】<br>「先生が授業用のサイトをまとめていたこと。配布プリントをまとめてくれていたこと」、「最初に配布される資料が適切かつ分かりやすかった。また難しいことはうまくかみ砕いて教えてくれて、早い段階で理解を深められた。先生の画面を表示してくれたのもよかった」、「リアルタイムでコメントできる場や、授業内容をデータでまとめてくれていたのが見返しやすくてとても分かりやすかったです」など、全般的にこちらの工夫を高く評価してくださるコメントが多く、大変うれしかったです。今後も工夫を続けていきたいと思います。<br>【Q12.この授業をよりよくするためのアイデア】<br>「プリントの書くスペースをもうちょい設けてもよいと感じた。特に論述の部分。」については、こちらのプリント設計のミスです。来年度以降は対応できるよう修正したいと思います。 | | |

| 情報資源組織演習（分類） | 今井　福司 | 2026／水 3・水 4／前期 |
|---|---|---|
| 【Q11.この授業について、良かった点】<br>水 3 については、「NDC が自由に使えたり、試験前に貸し出しをしてもらえたところや、様々な動画やスライドなどでの質問などオンラインでつながるよう配慮されているところがありがたかった。」という工夫にコメントいただきありがとうございます。なるべく欠席してもフォローしやすいように進めていたところですので、私としてもうれしいです。今後も工夫を続けていきたいと思います。<br>水 4 については、授業の対応について丁寧であった旨をご指摘いただき感謝申し上げます。今後も細やかな対応ができるよう精進したいと思います。 | | |

| 学校経営と学校図書館 | 今井　福司 | 2026／月 1／前期 |
|---|---|---|
| 【Q11.この授業について、良かった点】<br>「授業がユニークでとても面白かったです」といったコメントや、「manaba 上にたくさんの資料が提示してあり、気になったものは授業後でも再度チェックすることがしやすく自分のペースで理解することができた」といったコメントなど、本授業の工夫を評価してくださるコメントばかりで恐縮しています。今後も工夫を続けていければと思います。 | | |

| 学校図書館メディアの構成 | 今井　福司 | 2026／月 4／前期 |
|---|---|---|
| 【Q11.この授業について、良かった点】<br>授業形式がユニークである旨を挙げていただき感謝申し上げます。ただし今学期は教材の変更が直前で生じるなど、担当教員として課題を感じる個所が多々ありましたので、事前の確認を徹底するなど対応を進めてまいりたいと思います。 | | |

| 児童文学入門Ａ | 藤本　恵 | 2026／月 2／前期 |
|---|---|---|
| 【Q7 について】<br>この数値がやや低くなった、つまり興味を持ってくれた受講生が少なかったことは、たいへん残念です。一年生必修で、学びの入口になる科目ですから、どうすれば興味・関心を持っていただけるか考え、工夫していくつもりです。授業に参加する学生のみなさんのご意見を聞き、取り入れていきたいと思います。<br>【Q13 「この先の授業の支えになる」という感想について】<br>たいへんうれしく拝読しました。今後の学修の基礎となるような知識をつけてもらいながら、興味・関心を育てるにはどうすればよいか、考えていきます。 | | |

| 基礎演習Ａ | 藤本　恵 | 2026／火 4／前期 |
|---|---|---|
| 私が授業内でアンケートへの回答を促すのを忘れていたせいもあり、回答数はわずかでした。それでも、演習形式を生かし、受講生どうしでコミュニケーションをとりながら、児童文学研究について充実した学びを得てくださったことがわかりました。<br>はじめての演習なのに、課題が多すぎるだろうか…と心配したこともあったのですが、杞憂でした。どの研究発表も期末レポートも充実していて、教員としてもやりがいのある授業になりました。 | | |

| わらべうた研究 | 高橋　佳奈枝 | 2026／水 5／前期 |
|---|---|---|
| 今年度も学生たちに恵まれ、わらべうたという先人の知恵などをお伝えすることができました。途中、台風による補講授業日程が加わり最後に全員の顔を見ることができず残念でしたが、毎回のリアクションペーパーでの理解や解釈などを読ませてもらい、このようにあそぶ体験をして、自分の中の変化や発見ができることはいいなと感じました。その発見がきっと社会に出たときに役に立つと思います。わらべうたは決してあかちゃんのあそびだけではないこと。この授業を履修された皆さんは感じてくださっていたらいいなと思います。そんな経験がこれから生きるうえでの皆さんの何かの助けなることを願います。 | | |

| 少女マンガ論 | トミヤマ　ユキコ | 2026／火 5／前期 |
|---|---|---|
| 【Q11 について】複数の回答において、リアクションペーパーへのフィードバックがあったことへの言及がありました。全員のコメントを取り上げ、個別にフィードバックしたのがよかったのかなと思います。これからも授業冒頭の恒例イベントとして続けていきたいと思います。 | | |

| 子どもと社会 | トミヤマ　ユキコ | 2026／月 5／前期 |
|---|---|---|
| 【Q10 について】プロジェクターの性能がいまひとつであることを指摘する回答が複数ありました。ビジュアルの資料をたくさん見せる授業なので、学生にとってはストレスだったかもしれません。教室の選定も含めて、工夫が必要だと感じています。 | | |

### ② 教務課からのメッセージ

今回の授業アンケートは夏期に実施したこともあり、空調に関するご意見が多く寄せられました。管財課によると、同一の教室であっても、座席位置（空調の風が直接当たる場所など）や時間帯、日当たりの違い等により、体感温度に差が生じる場合があるとのことです。一方で、寄せられたご意見を踏まえ、夏期休暇期間中の設備点検においてはアンケート集計結果を参考に、必要な調査や不具合の改善について検討していただきました。

また、履修者数に対して教室規模が適切でない（狭すぎる、あるいは広すぎる）とのご意見も多く見受けられました。教員の希望により特定の教室を使用している場合や、曜日・時限によっては授業数が集中し利用可能な教室が限られる場合があることから、一部の授業については教室変更が困難な状況もあります。しかしながら、今後も履修者数や教室利用状況を踏まえながら、可能な限り適正な教室配置となるよう対応してまいります。

# 「授業改善のための学生アンケート」2026 年度前期 顕彰授業について

2026 年 9 月 17 日
白百合女子大学 FD･SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度には集計結果を活用した顕彰制度を導入しました。アンケート結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れた点を大学全体で共有しています。

2026 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業の工夫や取り組みについては順次公開いたします。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰授業の工夫を知ることで、よりよい学びに向けた気づきを得る一助となることを願っています。

## 2026 年度前期

### 部門Ａ（履修者 6～14 名）

国語国文学科専門科目　水曜 2 限　前期
**「国語国文学特講（表現学）Ⅰ」三浦　則子先生（文学部国語国文学科非常勤講師）**

### 部門Ｂ（履修者 15～29 名）

初等教育学科専門科目　月曜４限　前期
**「領域言葉」土橋　久美子先生（人間総合学部初等教育学科准教授）**

### 部門Ｃ（履修者 30 名以上）

児童文化学科専門科目　火曜３限　前期
**「児童文化入門Ｂ」森下　みさ子先生（人間総合学部児童文化学科教授）**

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ることで、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
③ 学生が学びたい内容を適切なレヴェルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
③ 集計する設問は、以下の 6 項目（項目毎の平均点の合計／30 点満点）とする。
　Q3　教材や配布資料の内容や分量は適切だった。
　Q5　教員の説明はわかりやすかった。
　Q6　教員は学生からの質問、相談、提出物に対して適切に対応していた。
　Q7　この授業の内容に興味を持つことができた。
　Q8　この授業を履修したことに満足している。
　Q9　この授業を他の人に勧めたい。
④ 顕彰候補は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
⑤ 顕彰部門は、「A」（履修者数 6～14 名）「B」（履修者数 15～29 名）「C」（履修者数 30 名以上）の 3 部門とする。
⑥ FD･SD 推進委員会は、選考資料をもとに各部門第 1 位を確認、顕彰対象授業を決定し、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。なお、選考時にアンケート回答率および Q11 の回答内容によって、順位を調整する場合がある。
⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD･SD 推進委員会

# 「授業改善のための学生アンケート」2026 年度前期 顕彰授業における工夫

2026 年度前期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 6 項目です。

Q3　教材や配布資料の内容や分量は適切だった。
Q5　教員の説明はわかりやすかった。
Q6　教員は学生からの質問、相談、提出物に対して適切に対応していた。
Q7　この授業の内容に興味を持つことができた。
Q8　この授業を履修したことに満足している。
Q9　この授業を他の人に勧めたい。

## ＜部門Ａ（履修者 6～14 名）＞

**「国語国文学特講（表現学）Ⅰ」　三浦　則子先生（文学部国語国文学科非常勤講師）**
**2026 水 2 前期　国語国文学科専門科目**

「表現学」の授業では、総合的な日本語表現力の向上を目指しています。講義形式の授業のほかに、学生の皆さんがアクティブに話し合って作品を創作したり、スピーチを行ったりする授業があり、特に「話す」「書く」能力の向上に重点を置いています。

「話す」では、与えられたテーマについて３分間程度のスピーチを行い、話す力・説明する力の向上を目指しています。聞く側も必ず質問・コメントをするようにして、一方的に話すだけにならないよう配慮しています。

「書く」では、さまざまな形式の文章を書いてもらいますが、近年、特に力を入れているのが「神無月」（国語国文学会発行の冊子）に投稿する文章などをグループで創作することです。

まず、「神無月」のバックナンバーを読み、これまでに先輩たちがどのような作品を書いてきたのかを調べるところから始め、自分が表現したいジャンルを決めてもらいます。それは短歌や小説の創作かもしれませんし、テーマに沿った作文や、イラスト等を多用した作品かもしれません。そして、皆さんの希望によって数名のグループを作り、一つの作品を創作していきます。

グループができる頃までに、学生たちが自由に発言できる雰囲気を作るよう心がけています。学生アンケートに「学生同士の交流やグループ活動が多く、色んな人と関わることができ面白かった」といったコメントがありましたが、一つの目標に向かって協力し合う関係を作れれば、グループ活動は自ずと面白いものになっていくのだと思います。

グループでの活動が始まれば、こちらが何も言わなくても、学生同士で話し合い、創作が進んでいきます。たとえば、「５名のグループで、小説を書こう」とした場合、どのような設定にするのか、登場人物は何人か、どのような人物か、年齢は、性別は、場所は、季節は、

などなど。皆で意見を出し合い、暴走して笑いが起きたり、修正して、また一から話し合ったり、何よりも学生の皆さんが精力的に活動しています。そのように盛り上がって話が動いている時は、こちらはそっと見守り、行き詰まった様子が窺える時には、一緒に考えて意見を引き出すようにしています。

一方で、連句のように、前の人の文章に続きを書いて繋げる「リレー作文」では、LINE で授業外でも活動を続けていて、対面授業の際には現状を確認し合うだけということもあります。

そうした、学生が主体となるグループ活動を行うことで、互いに刺激し合い、創作意欲の高まりにつながったように見受けられました。完成された作品を読むと、彼女たちがグループ作品に惜しみなく時間を注いだことに心を動かされます。この授業が顕彰されるに至りましたが、それは才能に溢れた履修学生の皆さんが努力を重ねた結果であって、私はそれを形にする場を提供したにすぎないと感じております。

本授業を担当させていただいてから、早 20 年余りの歳月が経ちました。「表現学」でも授業内容に関してマイナーチェンジを繰り返してまいりましたが、今の学生のニーズについて、国語国文学科研究室の助手さんからお話を伺う機会を得られたことも、大きな助けになりました。また、これまでに「表現学」を履修された皆さまにも、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

**＜部門Ｂ（履修者 15～29 名）＞**

**「領域言葉」　土橋　久美子先生（人間総合学部初等教育学科准教授）**

**2026 月 4 前期　初等教育学科専門科目**

「領域言葉」について

幼児教育・保育を学ぶ学生が履修する授業です。幼児教育には、保育者が子どもたちの育ちを総合的で見る視点として 5 つの領域があり、「領域言葉」はその一つとなります。絵本や紙芝居、パネルシアター、ペープサートなどの児童文化財の特徴や活用方法を学び、演習（保育実践）を通して、保育者の役割などについての理解にもつなげています。保育の中で子どもたちと楽しむ教材を自ら作り出していく、学生の主体性が求められる授業となっています。

授業の内容について（Ｑ５、Ｑ６、Ｑ７）

授業の取り組み態度や言語表現教材の課題提出期限など、他の科目よりも少し?!厳しめな授業だと思います。学生一人ひとりがその厳しさ、難しさ、そして大変さに向き合い、演習を通じて達成感や満足感を得ることが出来るよう、学生との対話を常に持つことを意識していました。紙芝居の演習では、良かったところや課題点など学生同士お互いに意見を交

換し合いました。ペープサートや牛乳パックの人形制作では、仲間と一緒に取り組むことで多くの刺激が生まれ、制作意欲につながったと感じています。この授業の集大成といえる「なんでも BOX 実践発表」では、一人ひとり自分の名前を紹介するパネルシアター「なんでも BOX」を作成し、グループ発表も行いました。演習（実践発表）を通して、教育・保育実習に向けてのイメージを持つことができたと思います。

教材について（Q３）

教科書は授業計画に沿ったものを使用し、教科書内に書き込みをしながら独自のテキストとなるように提案しています。制作で使用する素材（材料）に関しては、各自早めに準備できるよう授業初回で提示し、学生自身、見通しを持って授業に取り組むことができるようにしています。また、授業内で使用したパワーポイントなどは、manaba course のコースコンテンツに掲示し、各自で復習できるようにしました。

おわりに（Q８、Q９）

この授業は、制作を経て実践を進め、各自の課題と向き合う授業だと思っています。学生自身、自分が作ったもので発表をすることは、とても緊張します。しかし、やり遂げたあとには「作って良かった」「発表できて良かった」「友達から褒められて嬉しかった」という感想が聞かれ、達成感や満足感、充実感を味わっていた様子がありました。これからも、学生との対話を大切に、「学生の学びにつながるものとは何か」という問いを常に意識しながら、授業内容を検討し展開していきたいと思います。

学生の授業への取り組み、主体性がこのような顕彰表彰につながり、心より感謝いたします。

**＜部門Ｃ（履修者 30 名以上）＞**

**「児童文化入門Ｂ」　森下　みさ子先生（人間総合学部児童文化学科教授）**

**2026 火 3 前期　児童文化学科専門科目**

**全集中！「遊」の呼吸**

１年生の必修科目で、入学したての学生がみな履修します。目指すは「児童文化って面白い！」「学ぶって、こんなに楽しい！」「え、もう 90 分たっちゃったの！？」「次の授業が待ち遠しい」・・・と思われるような「遊ぶがごとく面白い」授業です。「遊びの中に文化がある」が児童文化の基盤なので、先生方からアイデアをいただいたり、学生に訊いたりして「遊の技」を磨いています。が、まだまだ、遊ぶがごとき学びの境地には達していません。それでも少し、いくつかの極意を身に着けましたのでお伝えしたいと思います。

【「手」使いの型】

昼食後の授業ということもあって、おそいくる睡魔に勝ってもらうためにも、手を使う機会を設けています。穴あきレジュメを配布し、パワポや私の解説をもとに、自らの手で穴を埋めてもらいます。集中力が増すと同時に、手を使って書くことで頭や心に刻まれるのではないかと思います。また、おまけ、おもちゃ、絵本などは、配ったり回したりして、できるだけ実物に触れてもらうことで、手を介したモノとの出会いを実感から学んでもらうようにしています。

【「笑い」の型】

真剣に考えるテーマもありますが、面白くて「笑ってしまう」ことで気づいたり、共感できたり、心の奥に届いて刻まれたりすることもあるので、授業の中で１回は「笑う」機会を作るようにしています。特に私が拾ってきたエピソード「子どもあるある」は、笑いとともに子どもの世界にダイブする楽しさと深さがあると思います。・・・実は、「子ども」探索をしてネタを用意する私自身が児童文化の楽しさを再発見しています。

【交わりの型】

インタビューやレスポン（マナバ）を使って、受講者の体験や考えや思いが交わる機会を設けています。一方的な講義で飽きてしまわないための工夫でもありますが、受講者の反応が命、ドンピシャリの答えだけでなく、思わぬ回答や、新たな問いが投げかけられることもあり、ライブの面白さを共有しています。